

公共事業としての社会基盤整備事業の評価方法と 投資効果計測方法に関する研究

共同研究グループ代表 立命館大学理工学部

春名 攻

幹事 八千代エンジニアリング（株）大阪支店

村上 正

1. はじめに

近年の経済不況は、我が国の産業構造の変革や社会構造の再編成を促し、国土・地域・都市における土地利用構造（地域構造）の改造を要請するようになってきている。一方、経済不況に伴う税収減による公共財源の不足は、社会・経済が必要とする公共投資を充足できない状況を生み、必然的に投資効果の小さい公共投資の削減を要請する意見が強く出され、事態はその方向に進みつつある。

本共同研究グループでは、以上のような認識のもと、「公共事業の中でも大きな割合を占める社会基盤施設整備事業の投資効果」に焦点を当て、まず、その事業の評価方法に関する検討を加える。ついで、その評価方法に対応する投資効果の計測方法に関して考察を加える。そして、その結果として無駄のない効果的投資となるような効率的な社会基盤整備事業のあるべき姿について検討することを目的としている。

そして、以上のような研究目的を達成するため、本研究グループでは、次のようにアプローチして研究活動を進めている。即ち、健全な社会システムの維持・発展のために行われる社会基盤施設の整備事業や、都市の経済的活性化や社会環境向上のために行われる都市開発プロジェクトの効果は多岐にわたるため、各種システム分析技法を活用して以下のような検討を順次進めていくこととした。

- ①事業効果・プロジェクト効果の内容を、交通基盤をはじめとする各種基盤施設に対して明らかにする
- ②その効果内容を的確に計測できると判断される項目も具体的に上げていく。
- ③具体的な社会基盤整備計画事業・都市開発プロジェクトを取り上げて、それらの投資効果を具体的に計測するとともに、

投資規模の拡大・縮小によってそれらの効果がどのように変化するかに考察を加える。

なお、上記のような検討項目に対して、現在、参加メンバー全員が、資料・情報の収集及び関連分野における話題提供者の招聘とそこでの討議、また、それらの内容を用いた分析・検討を進めているとともに、このような分析の途中結果をベースとして活発な議論を推し進めているところである。

2. 共同研究グループの構成

本共同研究グループの参加者は、以下に示すように、代表・幹事を含めて 28 名（大学 7 名、官庁 1 名、民間 20 名）で構成されている。

代表

春名 攻（立命館大学理工学部）

幹事

村上 正（八千代エンジニアリング（株））

委員

竹林 幹雄（神戸大学工学部）

滑川 達（立命館大学大学院）

宮原 尊洋（立命館大学大学院）

川治 淳祐（立命館大学大学院）

大西 謙二（立命館大学大学院）

奥村 隆之（立命館大学大学院）

福知 孝夫（建設省近畿地方建設局）

木戸 洋二（阪神電鉄（株））

久須 勇介（阪神電鉄（株））

宮本 和男（阪神電鉄（株））

十合 貴弘（阪神電鉄（株））

神戸 信人（（株）オリエタルコンサルタンツ）

辻 光弘（（株）オリエタルコンサルタンツ）

新島 健士（（株）かんこう）

竹林 弘晃（（株）建設技術研究所）

山田 孝弘 (JR 西日本コンサルタンツ (株))
山下 正章 ((株) 長大)
髭 豊彦 (ニュー・ゾエック (株))
藤田 和宏 (八千代エンジニアリング (株))
五十嵐善一 ((株) 奥村組)
堀内 治 (鹿島建設 (株))
堀 英彦 (清水建設 (株))
金井 康治 ((株) 銭高組)
井丸 昌紀 (大成建設 (株))
広野 雅男 (前田建設工業 (株))
磯村 幹夫 ((株) 松村組)

3. 研究活動の経過

本研究グループでは、次のような研究会を開催した。

第1回研究会

平成10年4月15日 10:00～12:00

(株) 奥村組9階会議室 参加者17名

- 本研究グループの発足に関する説明及び意見交換
- これからの公共事業のあり方に対する意見交換

第2回研究会

平成10年5月13日 14:00～17:00

三井アーバンホテル会議室 参加者21名

- 講演会；『既成都心部における複合整備事例について』 講師；橋本孝正氏（大阪市建設局）
- 共同研究の進め方に関する討議

第3回研究会

平成10年6月18日 14:00～17:00

土木学会関西支部会議室 参加者22名

- 講演会；『道路事業の事業評価方法の動向について』 講師；藤田和宏氏（株）長大）
- (財)地域マネジメントセンターに関する話題提供及び討議；春名攻氏（立命館大学教授）

第4回研究会

平成10年7月14日 14:00～17:00

立命館大学BKC第78会議室 参加者18名

- マルチプロジェクトプランニング・スケジューリングモデルに関する研究の報告及び討議；奥村隆之氏（立命館大学大学院）

第5回研究会

平成10年9月16日 14:00～17:00

土木学会関西支部会議室 参加者15名

- 講演会；『大阪ドーム建設とその開発効果について』 講師；安藤氏（株）大阪シティドーム）
- 「都市中心地区開発・整備と交通施設整備に関する総合計画問題」に関する話題提供及び討議；春名攻氏（立命館大学教授）

第6回研究会

平成10年10月21日 13:30～15:30

(株)銭高組大阪支社5階 A 会議室 参加者18名

- 草津川跡地利用についての話題提供及び討議；春名攻氏（立命館大学教授）

第7回研究会

平成10年11月17日 14:00～17:00

土木学会関西支部会議室 参加者12名

- 「中核都市施設としての地方都市におけるホテル計画評価問題に関する考察」に関する話題提供及び討議；春名攻氏（立命館大学教授）
- 「交通需要マネジメント（TDM）検討調査」に関する話題提供及び討議；春名攻氏（立命館大学教授）

第8回研究会

平成11年2月5日 12:00～14:00

OMMビル第1会議室 参加者14名

- 今後の研究活動方針・研究活動計画に関する意見交換

4. おわりに

今後においては、これまでの研究会における議論の内容を体系的に取りまとめていくとともに、それらの検討・考察にもとづき、事業・プロジェクト投資と効果の関係の定型化と定式化を行っていく予定である。さらに、上記のような「投資－効果」関係を表現したモデルを用いて、投資効果が大きな公共事業がどのような内容を持ち、どのように行われるべきかという事に関しての提言を試みたいと考えている。